

政府は南スーダンから自衛隊を撤退させよ

新任務(駆け付け警護、宿营地共同防護)付与など言語道断!

◆安倍政権は昨年強行成立させた安保法制=戦争法に基づいて、国連平和維持活動(PKO)要員として南スーダンに派兵している陸上自衛隊に、「駆け付け警護」や「宿营地共同防護」といった新任務を与えようとしています。

◆南スーダンではこの間、政府軍と反政府軍の間で激しい砲撃や銃撃戦が行われ、住民も犠牲になっています。また、民間人を乗せた車両が襲撃され、20人以上が死亡しています

◆安倍首相は国会答弁で、「戦闘ではなく衝突」「南スーダンは永田町と比べればはるかに危険だ」などと、自衛隊員の家族や国民の感情を逆なでするような詭弁を繰り返しています。また、稲田防衛相も、「リスクが高まるということではない」と、強弁しています。

◆新たな任務を与えないことはもちろん、今派遣している部隊を、ただちに撤退させるべきです。

「働き方」アンケートに 実態・願いギッシリ No.2 10/14 現在、629人分集約

■問5 あなたが(あなたや仲間の「働き方」で、「もしかしたらブラック?」と)感じていることなど。

・保護者対応で22:00近くに帰ることが何度もあり、つらい
・土日でも職場に行かないと仕事が終わらない
・会計処理は専門の方がやって下さると本当に助かる
・部活指導はわずかに手当は出るが、実質ボランティア

■問6 「働き方改革」で、政府に一番望むこと。

・職員の数を増やして
・臨時雇用者の福利厚生充実、整備
・監督の強化。現行法をきちんと守ることからまず始めるべき。労基署の職員を増員して本気で取り組むだけでもだいぶ違うと思う

■問8 時間きっちりで仕事が終わったら、何に時間を使いたいですか?

・家族のために、手の込んだ料理をしたい
・家族のために早く帰宅したい。家事をする
・子ども達の迎えに早く行って、ゆっくり夕食をとりたい
・夕食作りに時間をかける
・子どもと過ごす時間。きちんとした夕食作り

長野労連女性部 第26回定期大会開催

10月7日、女性部は高校会館で第26回定期大会を開催しました。大会では議案の討議をするともに、自分たちの周りで起きているさまざまな問題を報告しあい、交流しました。

教育現場からは、担任やクラブ指導の実績もあるのに、教員採用試験に受からない臨時採用者や、市内から通う子が多く、往復2000円以上の交通費負担で、毎日通学できない地域高校の生徒の実態。介護現場からは、看護師が注意義務を怠り利用者が亡くなったとして起訴されていることに對する裁判支援の訴え。どの発言からも、労働者や子どもたちの置かれている人権無視の実態が見えてきます。職場の中だけでは解決できないことばかりです。みんなで問題を共有し、声をあげ続けていくことが大事です。

私たちが直面しているのは戦後最大の平和と民主主義の危機ですが、今年7月の参議院選挙での市民と野党の共同のたたかいに確信を持ち、あきらめず、平和と人権を守るために働く女性の力を合わせ頑張りましょう。

長野労連
女性部長

田村昌美

(長野地域
民医労)



「全国学習交流集会 in ヨコハマ」=長野労連青年部から2人参加

★全国学習交流集会は、労働者教育協会が主催し、産業・職種を超えて全国から幅広い世代の仲間が集い、学ぶ集会です。2018年は長野で開催されます。★

■10月8～10日に開催された「憲法♡学びの力∞みんなの力∞全国学習交流集会 in ヨコハマ」に8、9日の2日間、参加してきました。

全体会の後、ジェームス三木さんを講師に記念講演が行われ、ユーモアを交えながら言葉のあいまいさや人への伝わり方など話していただきました。講演を聞いて、学習することの大切さを感じました。

分科会は、「労働組合と学習組織の共同をどう発展させていくか」と「フィールドワーク横浜港コース」に参加させていただきました。

参加してみて労働組合について確信をもって行動していくには、学習がとても大切だと思いました。日々忙しくてなかなか学ぶ時間がないですが、少しずつ学んでいきたいと思いました。こうした機会をいただき本当にありがとうございました。



県教組長水支部
山崎芽久美さん

フィールドワーク - 横浜港コース〈港湾労働者たち〉参加(2018.10.9)

■2016年10月8日から横浜市で行われた全国学習交流集会に参加させていただきました。

初日の記念講演「憲法と私」では、脚本家のジェームス三木氏のユーモア溢れる語り口から、日々の暮らしを健やかに過ごすうえでの「自由」「平和」の大切さと、それを支える平和憲法の尊さを改めて考えさせられました。学習企画「ミニシンポ 憲法・貧困・安保」では平和を人権として捉える平和的生存権の考え方に始まり、憲法・貧困、そして安保条約は個別ではなく相互に密接した問題であることを学びました。シンポジストである馬奈木弁護士の「憲法を変えるべきなのか？この国の在り方をどうしたいのか？」という問いかけは国民全員が真剣に考え、答えを出すべきものであると感じています。

2年後には長野で行われる同交流集会に、今度は自分なりの答えを見つけて参加できたらと思っています。貴重な学習の機会を設けていただき、ありがとうございました。

長野地域民医労 中島烈志
(長野労連青年部幹事)

加盟組合紹介

長野県教職員組合長水支部

★子どもと教職員の、笑顔あふれる学校を

安部政権は「教育再生」の名のもとに、OECD諸国で最低の教育費改善を求める声には耳も貸さず、安上がりな公教育、エリート教育の推進に突き進んでいます。また、平和を求める主権者を育てる民主的な教育に対して、自民党議員が密告フォームをホームページに設置するなど、政権に呼応した反動的な動きも盛んです。

私たちは、真に豊かで行き届いた教育をもとめ、「県民教育署名」にとりくんでいます。署名は、駅前ですえたり、各職場でPTAのみなさんと一緒にとりくんだりしています。また、長野労連に結集し、教育に対する要求を自治体訪問で訴え、共同の取り組みを広めています。

私たち教職員の働き方も、大きな課題があります。日本の教職員の勤務時間は、OECD諸国の中でも群を抜いて多く、教職員の健康への悪影響は計り知れません。長野県の教職員の時間外労働は月平均80時間を超えています。長年の組合のとりくみで県教委は3年間で30%時間外勤務を削減することを約束しました。しかし、3年目にあたる今になっても、抜本的な対策も示せず、勤務時間削減は一向に進んでいません。

教職員定数の改善を進め、子どもも教職員も笑顔で楽しく、学び過ごせる学校を作るために、みなさんと力を合わせて様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。

長野県教職員組合長水支部
書記次長 久保田 圭

■10・27 学習会「安倍政権の雇用破壊を許さない」にご参加ください。

★詳細は、配布したチラシをご参照ください。

■「働き方」アンケートに、あなたと仲間の実態・願いを。